

## 2 下水道の動き

### (1) 中小町村の下水道事業

道内の町村部の平成 18 年度末の下水道処理人口普及率は 58.7%であり、市部の 95.2%に比べ低い状況にあることから、今後はこれら中小町村での快適な環境づくりのための下水道整備を重点的に行なう必要があり、北海道全体の活性化を図るうえでも不可欠となっている。

下水道の事業手法としては、都市計画区域を対象とした公共下水道事業のほかに、昭和 50 年に「下水道整備緊急措置法」の一部改正が行われ制度化された特定環境保全公共下水道事業がある。また下水道以外の集合処理手法として農業集落排水整備事業や漁業集落排水整備事業など、個別処理手法として浄化槽整備と、すべての道民が快適な生活環境を享受できるよう進めている。

道では、各市町村での効率的整備のため庁内関係部で「生活排水施設整備委員会」を設置し、普及促進や事業手法の調整などを進めている。また道費補助や代行業の実施など様々な形での推進を図っている。

### (2) 北海道が支援する下水道事業

#### 地域環境保全下水道事業

平成 9 年度に道はそれまでの湖沼汚濁防止下水道事業と特定観光地下水道事業（はまなす下水道）の両道費補助制度を統合し、地域環境保全下水道事業を創設した。

これにより、自然公園などにある閉鎖性湖沼の水質保全や観光地の優れた自然を守るなど、地域の環境を保全するため、これらの地域で市町村が行う公共下水道事業の整備を促進する。

#### イ 閉鎖性湖沼における下水道事業

昭和 46 年度より、湖沼の水質汚濁防止下水道事業の促進を図るため、予算の範囲内で補助を行ってきた。平成 10 年度までに 9 箇所（8 市町村、7 湖沼）において整備の促進を図っている。

表 年次別新規箇所

年 度	昭和 46 年度	昭和 50 年度	昭和 51 年度	昭和 62 年度	平成 2 年度	平成 4 年度
都市名(湖沼名)	虻田町(洞爺湖)	阿寒町(阿寒湖) 七飯町(大沼)	千歳市(支笏湖)	網走市(網走湖)	女満別町(網走湖) 洞爺村(洞爺湖)	網走市(能取湖) 鹿追町(然別湖)

#### ロ 観光地における下水道事業（はまなす下水道）

北海道の優れた自然環境を守り、道内外から訪れる観光客に快適な宿泊環境等を提供するため、観光地における下水道整備が課題となっていたため、平成 3 年度から、道は予算の範囲内において、観光地で市町村が行う公共下水道事業に対して補助を行っており、これを「はまなす下水道」の愛称で呼んでいる。

これまでに、倶知安町（比羅夫）斜里町（ウトロ）及び中標津町（養老牛温泉）の事業計画策定費に、また、倶知安町（比羅夫）東川町（旭岳温泉）斜里町（ウトロ）及び中標津町（養老牛温泉）の起債償還費に補助を行っている。

都道府県代行制度

過疎市町村の下水道事業を支援するため、都道府県が過疎市町村に代わって処理場、管渠等の根幹的施設の建設を行うとともに、費用の一部を負担する都道府県代行制度が平成3年度に創設された。

北海道においても、平成3年度から平成19年度までに38町村がこの制度を活用している。

平成19年度新たに利尻富士町鬼脇処理区、礼文町船泊処理区が供用開始する。

下水道代行事業実施町村一覧

平成3年度	置戸町	平成9年度	豊富町
平成4年度	大滝村		利尻町
	東藻琴村		湧別町
平成5年度	剣淵町		上湧別町
	風連町		奥尻町
平成6年度	中富良野町	平成10年度	更別村
	南富良野町		泊村
	陸別町		上ノ国町
	西興部村		大成町
平成7年度	滝上町		平成11年度
	瀬棚町	利尻富士町(鴛泊)	
	熊石町	厚田村	
	乙部町	共和町	
	真狩村	留寿都村	
平成8年度	赤井川村	平成12年度	古平町
	幌延町		丸瀬布町
	遠別町		白滝村
	喜茂別町	平成15年度	戸井町
	寿都町		礼文町(船泊)
	知内町		平成16年度